

57. 老人保健施設における転倒事故と痴呆との関係

キーワード：転倒事故・痴呆・
老人保健施設・歩行能力

豊明老人保健施設

兼松 美紀・三宅 正恵

名古屋大学医療技術短期大学部

井上真寿美・河上 敬介・鈴木 重行

【はじめに】 人口の高齢化にともない、老人の転倒事故は増加する傾向にある。また転倒事故が寝たきり老人を作り出す一要因となっているという報告も多く¹⁻³⁾、老人保健施設においても大きな問題点の一つである。老人の転倒事故の原因には、加齢による身体機能の低下が挙げられる。また、身体機能の低下と精神機能の低下には密接な関係がある⁴⁾といわれており、精神機能の低下と転倒事故の間にも何らかの関与が予想される。そこで我々は豊明老人保健施設（以下、本施設）において、その関与の実態を明らかにするための調査をおこなったので報告する。

【方法】 対象は、平成4年4月から6月までの3カ月間、本施設を利用した306名のうち、転倒者64名（転倒者群。男性23名、女性41名、平均年齢81.8歳）と、調査可能であった非転倒者176名（非転倒者群。男性43名、女性133名、平均年齢81.3歳）とした。そして、転倒者に対して①精神機能（長谷川式痴呆スケール）、②調査期間中の転倒回数、③最高歩行能力を調査した。また、①③については非転倒者に対しても調査し、転倒者と比較した。

【結果】 I：転倒者の精神機能の特徴

精神機能は、転倒者群において、痴呆と評価された者の割合が33%であり、非転倒者群（13%）に比べ高かった（ $P<0.01$ ）。また、正常と評価された者の割合が3%であり、非転倒者群（13%）に比べ低かった（ $P<0.05$ ）。

II：転倒者の精神機能と転倒回数の関係

転倒者群において、精神機能と転倒回数の関係について調べた結果、痴呆と評価された者では平均転倒回数2.5回、準痴呆では1.7回、境界では1.3回、正常では1回と精神機能の低い者ほど転倒回数が多い傾向にあった。

III：転倒者の歩行能力の特徴

最高歩行能力は、転倒者群において、独歩が可能なる者の割合が20%であり、非転倒者群（41%）に比

べ低かった（ $P<0.01$ ）。また、転倒者群において、補助具（杖、歩行器、平行棒）を使用してならば歩行が可能な者の割合が52%であり、非転倒者群（36%）に比べ高かった（ $P<0.05$ ）。

IV：転倒者の精神機能と歩行能力との関係

さらに転倒者群において精神機能と歩行能力の関係について調べた結果、「歩行不可能な転倒者（18名）」のうちでは、痴呆の占める割合が最も高く（8名）、「独歩可能な転倒者（12名）」のうちでも痴呆と評価された者の占める割合が最も高かった（5名）。一方、「補助具（杖、歩行器、平行棒）歩行が可能な転倒者（34名）」のうちでは、境界と評価された者の占める割合が最も高かった（14名）。【考察】 今回の調査により、非転倒者に比べ、転倒者に痴呆と評価された者が多いことがわかった。さらに痴呆の程度の高い者ほど転倒を繰り返す傾向にあることもわかった。痴呆の者は注意力に欠けており、転倒の予想される状況の察知が困難であるため、転倒の危険性が高かったものとする。また、痴呆の程度の高い者ほど転倒事故経験に対する認識が不足しており、そのため何度も転倒を繰り返す者が多かったと考えられる。

また、非転倒者に比べ、転倒者には歩行能力が低い者が多いことがわかった。さらに、転倒者において歩行不可能である者のうちでは、痴呆と評価された者が多いことがわかった。一方、転倒者において独歩可能である者のうちでも、痴呆と評価された者が多いことがわかった。このことより、身体機能に関係なく、精神機能が低下している者では転倒の危険性が高いことがわかった。

【まとめ】 今回の調査により、①転倒者には精神機能の低い者が多く、②痴呆の程度の高い者ほど転倒回数が多いことがわかった。また、③身体機能に関係なく、精神機能が低下している者は転倒の危険性が高いということがわかった。これらのことより、転倒事故への精神機能の関与が明らかとなった。よって、精神機能の低い者に対して注意を払い、精神機能と歩行能力に見合った適切な日常生活動作の指導を行うことがことにより転倒事故を防止していくことが大切であるとする。

【引用文献】

- 1) 丸橋佐和子：老人の骨折に伴う寝たきりの発生要因。看護技術。36：241-244, 1990.
- 2) 林義孝，他：高齢者の骨折—身体計測による骨折危険老人の抽出—。理学療法学。18：292-295, 1991.
- 3) 泉キヨコ，他：高齢入院患者の骨折に結びつく転倒、転落の要因とその対策。看護技術。36：245-248, 1990.
- 4) Hirschberg, G. G.：リハビリテーション医学の実際改訂2版。32-43, 1990.